



ASLE-Japan/設立準備会

Newsletter

The Association for the Study of Literature and Environment
in Japan

March 20, 1994 Vol.2, No.2

第3回 ASLE-Japan設立準備会ミーティング報告

去る3月5日(日)、京都の光華女子大学淳風館内会議室で3回目の準備会会合を持ちました。参加者は次の14名の方々です。(順不同、敬称略)

スコット・スロヴィック(サウスウエスト・テキサス州立大学)、大神田丈二(山梨学院大学)、太田雅孝(大東文化大学)、中村邦生(大東文化大学)、高田賢一(青山学院大学)、伊藤詔子(広島大学)、木下卓(愛媛大学)、西村頼男(四天王寺国際仏教大学)、岩田強(光華女子大学)、村上清敏(金沢大学)、結城正美(金沢大学・院)、生田省悟(金沢大学)、野田研一(金沢大学)、吉田純子(広島大学)

関西方面の方々を交えた今回は、かなり具体的かつ現実的な議論を行うことができました。話題は概ね次のような事柄です。以下、概要をご報告します。

1. ASLE-Japan 設立に関する意見交換。
2. 設立の時期
3. 性格
4. 活動内容
5. 組織
6. 規約
7. その他

1. ASLE-Japan 設立に関する意見交換より(提出されたご意見を羅列的にご紹介します。ただし、これは野田のメモよりまとめたもので、網羅的でも正確でもないことをお断りしておきます。)

- ・従来分散していた作家別研究組織が、自然という共通のテーマで関与できる点が特徴となる。
- ・人数は問題ではない。
- ・活力を失わない求心性が必要。
- ・主題の普遍性から見て、大きな可能性がある。
- ・Japanese Nature Writing の研究は発信型の研究組織となる可能性を持っている。ASLE の国際化に貢献できる。
- ・ひとりひとりが脱領域的になる必要。
- ・American Nature Writing に関する読みの蓄積と情報の共有から始まる。

- ・現在のそれぞれの研究対象作家を基礎に考えてゆく。個別研究のコンテキストを拡大できる。
- ・E-Mail の活用など、コンピューター・ネットワークを積極的に利用し、情報化社会の中の学会のありかたを構想する。
- ・文学の内部にとどまらない広がりが期待できる。
- ・Nature Writing というジャンルの存在は、文学という固有領域を不確定にする。
- ・女性の視点からの自然の問題。フェミニズムとの関連や身体性の問題。
- ・日本的な「うつしみ」*的自然をどう位置づけるか。
[*上田三四二の作品]
- ・環境問題を介して社会的な発言を行う責任。
- ・Native Americans の文学と自然の問題。

次に今回の会議で確認した事項を報告します。({ } 内は今後の課題。)

2. 設立の時期

5月熊本で開かれる日本英文学会大会2日目の15日(日)午後1:00より、発足を開催する。

3. 性格

あくまでも文学研究を中心に据える。ただし、多方面からの参加を排除するわけではない。

4. 活動内容

Japanese Nature Writing と American Nature Writing に関する研究グループを組織し、当面書誌的情報の蓄積に努める。夏の終わりを目途に集約し、今秋に第1回の例会を兼ねて報告会を行う。[両研究グループの代表および書誌の集約方法。]

5. 組織

当面、金沢大学/野田研究室を事務局とし、会計も兼ねる。また連絡や研究会の便を考慮し、地域ごとに代表幹事を置く。現在了承を得ている方のみご紹介しします。

関 東 大神田丈二、外岡尚美
京 阪 岩田 強、西村頼男
中・四国 上岡克己、伊藤詔子

6. 規約

ASLE-U.S. の規約を基礎に、なるべくシンプルなものにまとめる。[4月の第4回会合で草稿を作り検討する。]

7. その他

- ・現在、準備会代表世話人が把握しているメンバーは42名。
- ・各地域で積極的に study group を編成する。
- ・ASLE-Japan の日本語名称 [次回要討議]
- ・文部省科研費請求、その他の研究基金



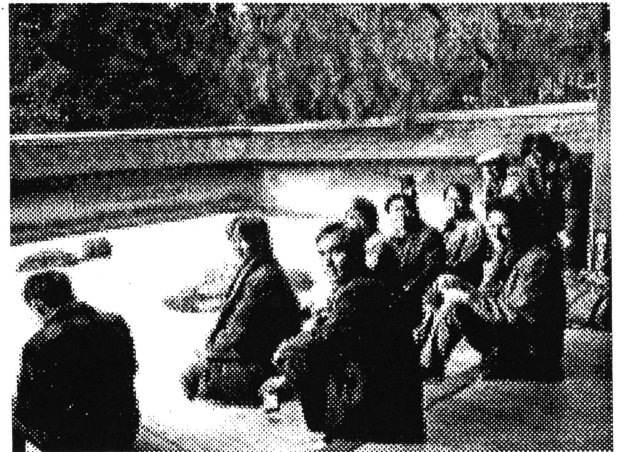
京都ミーティングは総勢14名の参加を得、積極的な意見が飛び交う手応えのある会議でした。夕刻には会場を平安神宮そばの東山荘に移し、懐石料理を味わいながらの懇親会。ミネルヴァ書房編集部の杉田啓三氏も加わって下さり、旧交と新交の交差する楽しいひとときとなりました。

翌日は、主に東京組と金沢組とで京都ハーフデイ・ツアー。タクシーと徒歩で竜安寺、金閣寺、等持院、南禅寺などを巡りました。前日のミーティングでASLE-Japanは日本のNature Writingの発掘・紹介をも積極的に行うことが確認されたばかりでしたから、京都は初めてのスロヴィック氏を案内しなが

ら、私たちが日本の庭園に現れた自然に触れてみようと思ったわけです。

ところで、スロヴィック氏の眼には竜安寺の枯山水の庭園はどのように映ったのでしょうか。東洋的神秘?人工の極致?ミニチュアリズム?ユイスマンスの『さかしま』は英語ではAgainst Natureと訳されていますが、古今東西を問わず、庭園とは囲われた「自然」、Against "Nature" なのだということに、私たちがまた改めて気づかされたのでした。

最後になりますが、京都在住の岩田氏、西村氏のゆきとどいたお世話に改めて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



第4回 ASLE-Japan設立準備会ミーティングのお知らせ

来る4月3日(日)、4回目のミーティングを東京で下記の要領で行います。当日はちょうど「アメリカ学会」大会の2日目。学会に参加される方も多いと思い、この日を設定いたしました。今回は報告にもありましたように、設立に向けて具体的な事柄を検討することになりますが、またこれまでミーティングに参加されなかった方々もお見えになる予定です。例によって積極的なアイデアの交換の場にもしたいと思います。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加下さい。参加される方は3月31日までに下記代表世話人までご連絡下さい。

日時：4月3日(日) 午前10時～12時

場所：渋谷 勤労福祉会館(公園通りのパルコ向かい、コージーコーナーそば)

和室第一会議室 Tel. 03-3462-2511

午後は場所を変えて昼食会を予定しています。時間の許す方は午後もご予定下さい。親睦を兼ねた気楽なミーティングを行いたいと思います。

参加予定：宮下雅年(北海道大学)、土永孝(北海道大

学)、石井倫代(芝浦工業大学)、太田雅孝(大東文化大学)、西村頼男(四天王寺国際仏教大学)、野田研一(金沢大学)、大神田文二(山梨学院大学)、成田雅彦(専修大学)、笹田直人(宇都宮大学)、伊藤詔子(広島大学)、バート・リヒター(宮崎国際大学)、スコット・スロヴィック(サウスウエスト・テキサス州立大学)、岡島成行(読賣新聞)

なお、4月2日(土)、「アメリカ学会」懇親会の会場に、野田および伊藤詔子氏、西村頼男氏がおります。懇親会終了後、集まりを持つ予定です。会場で声をおかけ下さい。

スコット・スロヴィック、野田研一編「〈自然〉という文化—文学と環境への新しいアプローチ」(ミネルヴァ書房、1995年3月)の刊行が決定しました。第1部環境文学とアメリカ文化、第2部ネイチャー・ライターを読む、第3部エコクリティシズム、第4部エコクリティシズム関係書誌という構成です。ASLE-U.S.からの寄稿5編を含む18編による論文集です。実質的にASLE-Japan 最初の出版活動となります。

Bulletin Board

■東京ネイチャー・ライティング研究会報告

2月20日付のニューズレター紙上にスロヴィック氏が書いていらっしゃる通り、1月から東京都内で勉強会を開いています。青山学院大学の外岡研究室をお借りしたり、新宿の某喫茶店の一角を長時間占拠したりと会場はいろいろですが(スロヴィック氏がこの会を「ジブシー・スカラー・ミーティング」と呼ぶ所以です。)、今のところ毎回午前10時から昼食をはさんで4、5時間、スロヴィック氏の解説プラス参加者全員のディスカッションという形式で行っています。今までに採り上げたテキストは次の通りです。

1月15日: Annie Dillard, "Living Like Weasels."
John Daniel, "The Trail Home."

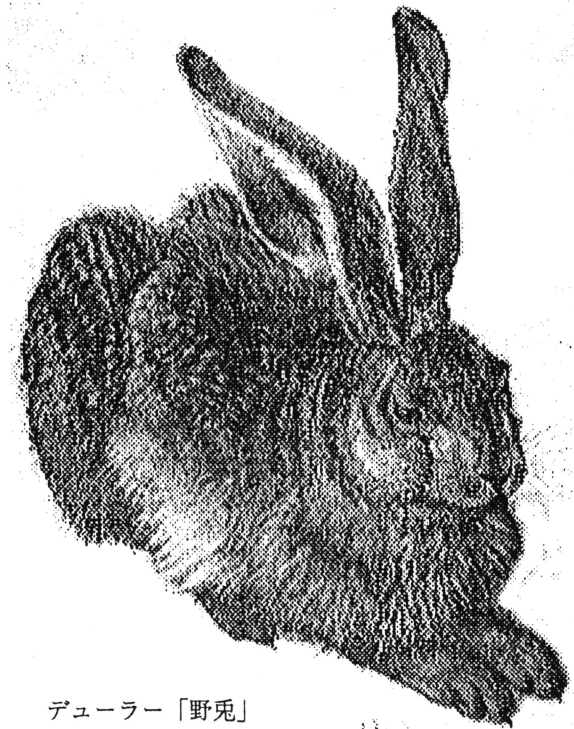
2月24日: Scott Russell Sanders, "The Sinics."
Gretel Ehrlich, "A Storm, the Cornfield, and Elk."

3月24日: Scott Russell Sanders, "Cloud Crossing."
Wendell Berry, "A Country of Edges."

この勉強会はネイチャー・ライティングというジャンルにはどんな作品があるのか知りたいという初心者の集まりですので、とりわけ第1回目はスロヴィック氏の勤めるままに、とりあえず2編を読みました。しかしその後のテキストの選択は、参加者の希望を考慮して決められています。例えば、第1回目の話し合いで出た文体の問題への関心から、第2回目では参加者の希望でサンダースのエッセイが選ばれ、このジャンルに特有の文体はあるのか、あるとしたら何か、第一人称単数形の使用がこの問題とどう関わっているか、等が議論されました。さらに、第一人称を使い実際の体験を再構成するという点では、ネイチャー・ライティングは自伝文学と共通するようだが、ではジャンルとして自伝文学とは何が違うのかという疑問から、第三回目の2編が選ばれました。第4回目(4月17日)はやはり参加者の希望で、都市と自然の関わり、都市の中の自然を議論する予定です。これについてはまた次回のニューズレターで報告いたします。参加ご希望の方は、スロヴィック氏() 又は芝浦工業大学システム工学部石井研究室 までご連絡を。

〈石井〉

■『英語青年』4月号 山里勝己氏(琉球大学)が「海外新潮」欄に「文学と環境」と題して、現在のアメリカ文学の研究動向を紹介しておられます。ご承知のように氏はこの問題に早くから持続的な関心に向けておられた研究者で、ASLE-U.S.の機関誌ISLE(Interdisciplinary Studies in Literature and Environment)の編集にも携わっておられます。「80年代初期までは研究対象としてリスクなものであったと言われるこのジャンルの、近年におけるまぎれもない変貌」(本文より)を示唆するタイムリーにして要



デューラー「野兎」

を得たエッセイです。もしお気づきでない方は是非ご一読を。〈野田〉

■上智大学講演会 同大学アメリカ・カナダ研究所の主催によるスコット・スロヴィック氏の講演会が次の要領で催されます。お近くの方はどうぞお出かけ下さい。

〈秋山〉

タイトル:

Environmental Education: Literature, Ecology, and the
"Transition to a Sustainable Society."

環境教育の諸問題: 文学、生態学、「維持可能な社会
への転換」をめぐって

日時: 5月18日(水) 午後3時30分~5時00分
場所: 上智大学 中央図書館 921号室

使用言語 英語

入場無料

■中・四国談話会 6月25日(土)、アメリカ文学会中四国支部例会で、スコット・スロヴィック氏が講演を行います。これに合わせて、翌日、「最近のネイチャーライティングの作品を読む」と題して、ASLE-Japan 中四国談話会の1回目が開催されます。今後の展開が大いに期待されます。

〈木下〉

日時: 6月26日(日) 午後1時30分~3時30分
場所: 愛媛大学 教養部本館 3階 英語資料室

参加予定者: 伊藤詔子、吉田純子、成定薫、木下卓、
上岡克己、加藤好文、上田みどり、横田
由里、毛利律子 他

連絡先: 愛媛大学教養部 木下卓

■〈シリーズ〉ナチュラリストの本棚 昨年来、東京書籍が刊行開始した翻訳全6巻が完結しました。エドワード・アビーからバリー・ロベスまで、現代の注目すべきライターのそろい踏みといった構成です。〈野田〉

日本のネイチャー・ライティングについて教えてください

ASLE-Japan 設立準備会は、その発足の当初から、アメリカのネイチャー・ライティングの研究・紹介、情報交換ばかりでなく、日本のネイチャー・ライティングの発掘、書誌の作成も将来の重要課題のひとつとして掲げました。しかし、何を以てして日本のネイチャー・ライティングというのでしょうか。それについてはまだ統一見解らしきものもなく——統一見解は必要ないという意見も当然あるでしょうが——「自然」という語について各人が抱いているイメージが千差万別であるように、ネイチャー・ライティングについてもかなり認識に差があるのが現状です。例えば、アメリカのネイチャー・ライティングはごく簡単に定義すれば「自然をめぐる、もしくは自然に関するノンフィクション文学」ということになるようですが、そのようなフレームに当てはまるもののみをもって日本のネイチャー・ライティングとするのでしょうか。それとも、長い詩歌の伝統を誇り、独特の自然観を育んできたわが国のネイチャー・ライティングは、アメリカとはまったく違うものだという前提に立つべきなのでしょうか。「ネイチャー・ライティング」は狭義にとらえれば貧しい一覧表しか残らないでしょうし、逆にあまりにも広義にとらえれば、日本文学のほとんどすべてを呑みこんでしまい、ついには收拾がつかなくなる恐れもあります。ともかく書誌の作成は、私たちが最初予想した以上に厄介な問題をはらんで

おり、一筋縄ではいかないことは間違いありません。そこで、実際にみなさんが日本のネイチャー・ライティングとして具体的にどのような作品を思い描いているかアンケート調査を行い、その結果を将来の書誌作りのための基礎的な資料とさせて頂くことにしました。自然（環境）と人間の関わりを主題としたものでしたら、ジャンルは問いません。日本語で書かれたものでしたら、詩、小説、評論、随筆、あるいはコミックでも結構です。みなさまがこれぞネイチャー・ライティングだと信じるものを、出来ましたら一人10編以上ずつ挙げて、下の住所まで郵便かファックスで送って頂ければ幸いです。アンケート用紙はこのニューズレターに添付されています。

締切：6月16日（木曜日）

送付先：

大神田 丈二

なお、もしもみなさまのご友人、お知り合い、職場の同僚の方でネイチャー・ライティングに興味のおありの方がおりましたら、ご足労ですがみなさまから協力を依頼して頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。〈大神田〉

編集後記

代表世話人より：「ASLE-Japan 設立準備会ニューズレター」はわずか4号を以て終刊となります。この短命さは慶賀すべきものですが、4回のミーティングに即応するかたちで何気なくはじめたこの「通信」と別れを告げるのはいささか寂しい気がします。読んで下さった皆さん、有り難うございました。この会が今後どのような方向にむかって進むのか、当面暗中模索の状態が続くことと思います。私たちとしては、「自然や環境と文学の関係を考える」すべての領域に開かれた集いでありたいと思います。また、対極的な見解のぶつかり合う議論の場でありたいとも。器だけが先行する研究組織ではなく、ややケオティックなほど激しいエネルギーが交錯する場

でありたい、というのは理想にすぎるでしょうか。熊本での議論の沸騰を期待します。

なお、設立後は、改めてニューズレターの定期的刊行を計画しています。ニューズレターは地域別の談話会や研究会と同じほど重要な情報交換の役割を果たさねばなりません。皆様の積極的な寄稿をお願いいたします。寄稿はなるべくフロッピーでお願いします。なお、本研究会はコンピューター・ネットワークの積極的な利用を考えております。この方面にお詳しい方、どうぞご連絡下さい。ちなみに、代表世話人二人は、マッキントッシュを使用しています。〈大神田+野田〉

ASLE-Japan

Vol. 2, No. 3

1994年4月25日発行

[編集・発行]

ASLE-Japan / 設立準備会

代表世話人：大神田丈二

野田 研一

連絡先：野田 研一